

2021年10月11日発行
www.tokushukai.jp

発行 ■ 一般社団法人徳洲会
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-3-1 東京堂千代田ビル14階
TEL : 03-3262-3133
制作 ■ 一般社団法人徳洲会 広報部
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-3-1 東京堂千代田ビル14階
TEL : 03-3288-5580 FAX : 03-3263-8125
Email : news@tokushukai.jp

徳洲新聞

TOKUSHUKAI MEDICAL GROUP NEWS

ALL LIVING BEINGS
ARE CREATED EQUAL

11/OCT.2021

No.1308

徳洲会体操クラブ

5年ぶり団体総合で優勝

第54回全日本シニア選手権

第54回全日本シニア・マスターズ体操競技選手権大会が9月23日から4日間、山形県の酒田市国体記念体育館で行われ、徳洲会体操クラブが団体総合で5年ぶりに王者に返り咲いた。個人総合では2年ぶりに表彰台に上がった。個人種目別でも2種目でトップを獲るなど、「強い徳洲会」復活の烽火を上げた。大会翌日には米田功監督ら5人が庄内余目病院(山形県)を訪れ、病院幹部らと交流を図った。



手にしたメダルを掲げる(前列左から)武田、田浦、柚木、北園、杉野、春木

徳洲会体操クラブから出場したのは武田一志、田浦誠也、高橋一矢、石澤大翔、柚木健大朗、松見一希、中谷至希、杉野正亮、北園文流、春木三憲のオールラウンダー10人。全員が6種目を演じ個人総合、個人種目別を闘うとともに、武田、田浦、柚木、杉野、北園、春木は団体総合にもチームで挑んだ。

今大会の団体総合では1種目につき6人全員が演技し、上位4人の点数がチームスコアとして反映される。徳洲会体操クラブは5種目目までライバルのセントラルスポーツにリードを許していたが、杉野と柚木を中心に安定した演技を披露するなど粘り強く闘い、最終の6種目目で逆転優勝。5年ぶりに表彰台の一番高いところに上がり、セントラルスポーツの3連覇を阻んだ。

その杉野と柚木は個人総合で2位と3位になり、徳洲会体操クラブ所属選手では2年ぶりの表彰台。北園は出だしの平行棒でミスするなど本調子には遠く6位に終わった。個人種目別では、つり輪で高橋が優勝、春木が3位、鉄棒で杉野が優勝、北園が3位となった。

杉野と柚木は「一番の目標だった団体総合での優勝を果たせてうれしい」と歓喜。「若い世代が中心となり、強い徳洲会を築いていきたい」(杉野)、「12月の全日本体操競技団体選手権で徳洲会の強さを見せたい」(柚木)と、さらなる飛躍を誓った。

米田監督は今大会を「社会人だけの大会であること、またパリ五輪に向けルール改正の内容が少しずつ明らかになるなか、セントラルスポーツは新ルール下での演技を試すような闘いぶりだったことを考えれば、優勝はうれしいものの、手放しては喜ばない」と総括。

照準は「あくまでも12月の全日本団体」と指摘し、「セントラルスポーツが強いのは間違いありませんし、東京五輪金メダリストの橋本大輝選手を要する順天堂大学も参加します。厳しい闘いになりますが、来年の世界選手権に選手を送り込むためにも結果を残したい」と、07年以来14年ぶりの優勝を目指す。

大会翌日には米田監督、新宅裕也コーチ、武田、亀山耕平、北園が会場に近い庄内余目病院(山形県)を訪問。寺田康院長ら病院幹部と懇談し、東京五輪や全日本シニアの報告を行うとともに日頃の声援に対する謝意を伝えた。寺田院長が「どうやってミスなくできるのか」と質問するなど、終始和やかな雰囲気だった。

同院では、クライオスタットを用いた標本づくりを小川部長が担っているが、緊急時のために技師が担当する場合のマニュアルも用意。今後は画像データを管理するパソコンと電子カルテとの共有を進めるなど、よりスムーズな実施を目指す。



「離島・へき地病院を含め対応したい」と青世・最高顧問

手術の質向上・幅拡大に寄与

2〜7日かかる。これに対し迅速病理診断では、検体を液体窒素素で急速冷却した後、クライオオスリットという専用の器械で凍ったまま組織を薄く切り、染色を施して顕微鏡で観察する。院内で完結できる場合、手術室から検体が病理検査室に届き、術者に結果を報告す

るまでに要する時間は10〜15分だ。迅速病理診断の結果により、治療範囲を決めたり、より適切な術式に変えたりするため、がんの手術では欠かせない工程となる。一方、全国的に

病理医が不足しているため、手術を行うすべての病院に病理医を配置できないのが現状。徳洲会病理部会は、センター化による人員集約により病理医不足をカバー、グループ病院の病理診断を一括受託している。今回初めて、病理診断科のない神戸病院がTOPと連携し遠隔迅速病理診断を実施した。

6月21日に大腸がんの手術で1例目、同30日に乳がんの手術で2例目を実施。乳がんの手術ではセンチネルリンパ節生検

で陽性が判明、術式を変更し対応した。富田雅史院長は「データ転送の時間などに課題はありますが、手術のクオリティを向上させる大きな一歩となりました。病理診断科がなくて手術の幅が広がられない病院は多くあると思いますが、当院が先頭に立って実施できたことは大きな価値があります」と胸を張る。

青笹克之・徳洲会病理部門最高顧問は「病理医のいない病院では臨床検査技師がクライオスタットを操作しますので、技師のスキルアップも必要。神戸病院での経験を生かし、今後は全国の徳洲会病理センターで、離島・へき地病院を含めた病理診断科のない病院の遠隔迅速病理診断に対応していきたい」と明かす。

中部徳洲会病院(沖縄県)は病理診断科があるが、神戸病院に先立ち、福岡徳洲会病院を拠点とする九州・沖縄病理診断研究センターと連携し、遠隔迅速病理診断を実施している。小川真紀・中部徳洲会病院病理診断科部長は「別の病理医と同じ画像を見ながら、ダブルチェックやディスカッションできるのがメリット。また、標本ではなく画像データとして管理できるのも、非常勤の若手医師の教育にも役立っています」と説明する。

神戸徳洲会病院は八尾徳洲会総合病院(大阪府)を拠点とする大阪病理診断研究センター(TOP)と連携し、遠隔迅速病理診断を開始した。迅速病理診断とは、手術の最中に一部の細胞や組織を採取し、病変が腫瘍かどうか、腫瘍であれば良性か悪性かなどを限られた時間で診断すること。インターネットを介し、手術中の検体採取と病理診断を別々の施設で行うのが遠隔迅速病理診断だ。神戸病院には病理診断科がなく、これまで迅速病理診断が必要な手術はできなかったが、これを機に診療の幅が広がった。



遠隔迅速病理診断用に画像データを転送(神戸病院)

徳洲会病理部会

遠隔迅速病理診断スタート

神戸病院が八尾病院とネット介し連携

離島・へき地に対応へ

実施に先立ち、同部会は遠隔迅速病理診断の手順書を作成。「当日まで」「当日」「終了後」に分けて手順を示し、当日の注意点として①目的箇所は外科医が決定し、手術室でその部分を切除し、手術室で検査室に提出する、②目的箇所1カ所につき原則として1ブロックに収まる大きさにとどめる――などを決めた。診断結果はTOPの病理医が、直接電話で神戸病院の術者に伝える。

井齋・日高病院院長 新型コロナと漢方で書籍上梓

自宅療養者向け処方例など紹介

日高徳洲会病院(北海道)の井齋偉院長(サイエンス漢方処方研究会理事長)は『新型コロナと速効! 漢方』を上梓した。本書は、約1,800年前に中国で書かれた漢方薬による「感染症治療マニュアル」とも言うべき『傷寒論』から読み起こし、西洋薬と漢方薬との違い、漢方薬の特徴や抗炎症作用の仕組みなど基本情報をわかりやすく解説。

そのうえで新型コロナの自宅療養者を想定し、症状に合わせた漢方薬の処方例を具体的に提示、さらに新型コロナワクチンの副反応や新型コロナの後遺症、メンタルの不調時、同居家族が濃厚接触者と判定された時に使える漢方薬など、さまざまな場面で効果が期待できる漢方薬を紹介している。

井齋院長は「漢方薬はウイルスそのものを攻撃するのではなく、身体にもともと備わっている免疫力を高める作用が肝です。西洋薬との併用が可能ですので、新型コロナに対しては、たとえば抗体カクテル療法などと組み合わせることでできます。西洋薬と漢方薬の「二刀流」で臨むことによって、より良い治療効果が期待できます」と指摘。また発行に寄せて「感染症に対する漢方薬の効果を知っていただき、長引くコロナ禍で不安な日々を過ごす方々に、本書の内容が役に立てばうれしい」と話している。



【新型コロナと速効! 漢方】(青春出版社刊、192頁、1,100円・税込み)

若手医師の教育にも活用